

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 志度の町並みを歩く

講師 砂山 長三郎（平賀源内記念館館長）

渡邊 寛（おへんろつかさの会会長）

野崎 義之

（さぬき市文化財保護協会志度支部長）

平成28年1月24日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1 多和神社



多和神社参道の石柱

源内通りの西端は多和神社参道と接しており、多和神社の入り口である「延喜式内廿四社之其一多和神社」という石碑と約四・五メートルの石柱がある。北から南へ一八三段、更に西に一〇二段の石段を上ると山上に本殿があり、志度の氏神として人々に親しまれていた。秋には大祭があり、神輿のお下がりを待ち受けた八台の太鼓台が源内通りを一日中乱舞する様は

圧巻である。宮司の屋敷内にある多和文庫には、弘福寺領讚岐国山田郡田くふくじりょうさぬきのくにやまだごおりでんず田ふ【国重要

文化財】、東大寺写経文書二通しやきようもんじよ【国重要文化財】、紙本墨書後小松天皇宸翰御消息しほんぼくしよこまつてんのうしんかんおんしようそくと同

女房奉書にようぼうほうしよ【県指定有形文化財】等五千点余の資料が収蔵されている。多和神社参道と

源内通りが交わる東側には、かつて明治七年に建てられた県下最初の精糖機械工場が

あった。大正期には乾繭所^{かんけんじよ}、戦時中は甘藷や野菜等の乾燥場に利用され、昭和二十九年より志度町授産所（志度特産の桐下駄の委託加工所）として、四十人余が就業していたが、建物の老朽化のため昭和六十三年に取り壊された。

2 用心堀と石灯籠

高松藩松平家が領内の百姓から取り立てた年貢米を収納するため、藩内各所に米蔵

を建てた。志度に建てられた米蔵は「志度の

御蔵」と呼ばれ、平賀家は、明暦三年（一六

五七）八月に御蔵番を命ぜられて以来、四代

九八年間に渡り世襲してきた。敷地は約五六

〇〇平方メートルで、米蔵三棟、年貢米の検

査所、藩役人や蔵番の部屋があり、その外側



石灯籠

に堀が巡らされていた。石灯籠は嘉永四年（一八五一）津田村大庄屋上野氏と志度村大庄屋岡田氏が御蔵の用心のために建立したものである。

3 平賀源内旧邸



平賀源内先生遺品館

平賀源内の生家であり、文久二年（一八六二）酢醸造業で成功した平賀家四代目松三郎の時に建て替えられた。昭和九年に平賀源内銅像建立のため、東側座敷部分が取り壊されたが、昭和四十八年に住居の一部を改造して遺品陳列館とし、同五十四年には西側に遺品館を新築し、南側には薬草園を開設した。遺品館は現在源内焼や薬草（源内健康茶）の工房となっている。平

成十二年に屋根瓦などを大改修、同十五年には薬草園の一角に源内焼窯が復元されている。

遺品館内にある大理石の胸像と源内旧邸内にある銅像は、さぬき市寒川町石田出身の小倉右一郎氏（香川県立高松工芸高校第八代校長）が制作した。

4 新町自然石灯籠

安山岩の自然石で作られた灯籠【市指定有形文化財】である。高さ三・二メートルで円窓の上に乗る笠は長い部分で直径二・八メートルという巨大なものである。志度寺への遍路道である珠橋西側道路沿いにあり、^{たまばし}間川雲附山に祀つ^{まかわくもつきやま}てある石鎚神社への奉獻と、醤油や塩を運搬す



新町自然石灯籠

る渡海船の道標を兼ねて、弘化三年（一八四六）元屋醤油初代小倉嘉平おぐらかへいによって建立された。

5 かながみ 金神さん



かながみ 金神さん

元屋醤油の北側にかながみ金神さんと呼ばれる古い祠がある。地元では「ふいごの神様」といい、昭和三十年頃まで付近の鍛冶屋が年に一度お祭りをしていた。元々志度の里は鍛冶職や鋳物師が多く住みつき、生産が盛んだったことから、「金屋」「鍛冶屋」という地名が残っている。

6 地蔵寺



地蔵寺本堂

如意山文殊院地蔵寺は真言宗善通寺派、
によいざんもんじゅいんじぞうじ
四国霊場八十六番札所志度寺の奥の院で
ある。本尊は文殊菩薩。開祖は志度寺本
尊を開眼し、同寺を創建した菌子尼そのこあま（文
殊菩薩の化身）である。「菌子屋敷」や「文
殊屋敷」とも呼ばれ、歴史的に志度寺よ
りも古い寺である。やまとたけるのみこと日本武尊の子、れいし霊子
が退治した悪魚の祟りを恐れ、御堂を建
立し、地蔵菩薩を祀ったのが、境内にあ
る地蔵堂（別名・魚霊堂）うおのみどうだと伝えられ
ているため、この寺を地蔵寺と称した。

また、この寺の地を「江の口」と呼ぶのは悪行を働いた「えの魚」の口を葬ったことと由来し、寺門の東側の石柱には「海鵝魚口魚靈堂」と刻まれている。

享保十四年（一七二九）志度の庄屋多田權右衛門の五男密英（中興の祖）が住職となり、翌十五年に文殊堂（本堂）を再建し、日本廻国六十六体尊像を安置した。この六十六体の仏像群は、平成二十一年に香川県立ミュージアムによつて全国的に例をみないほど珍しいものであることが調査報告された。（ミュージアム調査研究報告書第一号及び第五号）

7 平賀源内記念館

平成二十一年三月に平賀源内先生遺品館を移転し、名称を改め、新装開館した。現在には記念館本館と、平賀源内旧邸・薬草園・銅像は別館として見学できる。

【平賀源内（一七二八〜一七七九）】



享保十三年（一七二八）讃岐国寒川郡志度浦（現在のさぬき市志度）に、白石茂左衛門の三男として生まれる。幼少より本草学・儒学・俳諧を学び、十二歳にはからくり掛け軸「お神酒天神」を作るなど発明の片鱗もみせた。寛延二年（一七四九）父の没後、平賀姓を名乗り、高

松藩志度御蔵番を継ぐ。宝暦二年（一七五二）二十四歳になると長崎へ遊学し、世界を知り、本草学、医学などを学ぶ。二十六歳で藩務を辞し、妹に婿養子を迎えさせ平賀家の家督を譲ると、大坂を経て江戸に出て本草学と漢学を学んだ。江戸での知名度が上がり、杉田玄白や中川淳庵らとも交友するようになり、宝暦十三年『ぶつるいひんしつ物類品隲』を刊行する。その後も文芸活動を積極的に行いながら、明和三年（一七六六）には、

秩父中津川にて金山事業にも着手し、石綿などを発見した。明和七年に再び長崎に渡った折、舶来の壊れたエレキテルを手に入れ、安永五年（一七七六）十一月に七年の歳月を経て我が国で初めて摩擦起電機「エレキテル」を完成させた。その後の電気科学史の発展に寄与したこのエレキテルは現在二台のみ残っており、国重要文化財と市指定有形文化財として貴重な資料となっている。そして安永八年誤って人を傷付け投獄され、小伝馬町にて獄死。友人である杉田玄白らによって浅草総泉寺に埋葬された。享年五十一歳であった。

8 旅館いしや

明治中期に建てられた旅館【登録有形文化財】で、主屋は木造^{もくぞう}厨子^{くし}二階建て、和小屋組、片母屋造、本瓦葺、南側に接続して添屋二棟と取合廊下が続いている。二階は讃岐漆喰彫刻の代表とい



旅館いしや（外観）

われる。「隅柱漆喰彫刻」や漆喰虫籠窓むしこまどが見られ、軒裏や壁は白漆喰塗籠しろしゅくいぬりごめで仕上げられている。

9 志度城址

いしや旅館から南に小路を入った辺り一帯の地名を「城」といい、戦国時代に志度城（別名中津城）があった。長禄年間（一四五七〜一四六〇）に平木城主となった安富氏が、次第に勢力を拡大し、志度、鴨部、鶴羽の下道三郷を寒川氏より奪い、雨瀧城を築いた後、志度に支城を置いたのが志度城の始まりとされている。志度城は平坦な場所に位置しており、交戦を目的としたものではなく、情報収集、警備又は統治の役割を担っていた館（やかた）だったと考えられており、天正十一年（一五八三）五月五日雨瀧城が土州軍により攻略されたため、志度城も時を同じくして落城したと思われる。志度城跡には、明治十六年（一八八三）に二階建ての玉浦小学校が建てられ、同小学校は明治二十四年に志度尋常小学校として現志度図書館の地に移転したあと、



10 志度寺

その校舎は志度村役場として利用された。大正七年（一九一八）まで村の政治が行われた建物は現存している。昭和五十七年には地元の文化財保護協会によって、城跡を保存するため、墓石を整理し、植樹や説明板を作る整備が行われた。

志度寺本堂

ふだらくさんせいじょうこういんしどじ
補陀落山清浄光院志度寺は四国霊場八十六番札所で、本尊の十一面観音菩薩立像及び両脇土立像は国の重要文化財に指定されている。開創は推古天皇三十三年（六二五）と古く、凡菌子（おおしそのこ）が十一面観音菩薩を新たに刻んで観音堂を造立したのが始まりといわれる。

◆本堂【国重要文化財】

寛文十年（一六七〇）高松藩主松平頼重により建立。観音堂ともいい、県下最大級の仏堂である。桁行七間、梁間五間、入母屋造の本瓦葺で、前面には軒唐破風をつけた三間にわたる向拝を設けている。

◆仁王門【国重要文化財】

本堂と同年に建立。棟通りに立つ本柱四本の前後にそれぞれ四本ずつの控柱を立てた大型の八脚門であり、屋根は切妻造本瓦葺で、軒は二軒角垂木、組物は出三斗である。中央間に扉を構えた三間一戸の形式で、両脇には金剛柵を巡らして木造金剛力士立像【県指定有形文化財】を安置している。

◆ 曲水式庭園・無染庭^{むせんてい}

室町時代の作庭で讃岐の守護細川氏の造宮寄進である。書院の庭にあたる禅式枯山水式の無染庭は昭和三十七年に重森三玲氏によって復元され、七個の石と白砂で「海女の玉取り伝説」を表現した庭園である。

伝説によると、天智天皇の時代に藤原不比等は、妹から送られた宝珠を志度の浦で龍神に奪われてしまった。しばらくして、その地で出会った海女と夫婦となり、房前^{ふささき}と名付けた子をもうける。不比等から宝珠の話聞いた海女は玉を取り返そうと海に潜るが、命綱を引き上げると宝珠を取り返した海女は哀れにも手足を龍神に食いちぎられ、息絶えていた。海女は乳房の中に宝珠を隠しており、絶命した海女の体内から取り出された「不向背珠の玉」は奈良興福寺に奉納された（現在は琵琶湖竹生島の宝巖寺にある）。後に大臣にまで出世した子房前^{こふささき}は、志度に母の供養に訪れ、千基の石塔を建立し、母の霊を慰めたと言われている。

◆ 宝物館

「絹本著色志度寺縁起六幅 附紙本墨書志度寺縁起等付属文書九卷」【国重要文化財】、「絹本著色十一面観音像」【国重要文化財】、「絹本著色十一面観音像」【国重要文化財】、「絹本著色十一面観音立像」【市指定有形文化財】を所有。

◆ 琰魔堂及び奪衣婆堂【県指定有形文化財】

琰魔堂は寛文十一年（一六七二）本堂の東南方に西面して建てられ、桁行三間、梁間三間、向拝一間で、屋根は宝形造本瓦葺である。内部には向唐破風造の仏壇構を設け、中に冠に十尊を飾った琰魔王像が安置されている。奪衣婆堂は琰魔堂に向かい合って十八世紀中頃に建立され、琰魔堂とほぼ同じ形式で造られている。奪衣婆とは三途の川のほとりで亡者の着物を剥ぎ取り、衣領樹の上にいる懸衣翁に渡す鬼婆のことである。

◆海女の墓五輪塔群【市指定史跡】

志度寺境内の北側に墓地があり、亡き母の追善菩薩のために藤原房前公ふじわらふささきが千基の石塔群に自ら写経して経塚に奉納したものが、現在の中央の大きな五輪塔である海女の墓と伝えられている。

◆生駒親正墓塔【市指定史跡】

海女の墓五輪塔群のすぐ東に隣接しており、高松城主生駒家初代親正の墓塔である。生駒家先祖が藤原房前ふじわらふささきとされ、親正が生前志度寺を信仰していたことが、墓塔が志度寺に建立された所以である。高松市錦町の弘憲寺にも同じ石材を用いた生駒親正公夫妻の墓石の五輪塔がある。

参考文献

- 現地案内版
- 『さぬき市の文化財』平成二十四年十月一日 さぬき市文化財保護協会 発行
- 地藏寺パンフレット「志度寺開基 藺子屋敷 地藏寺」
- 平賀源内記念館ホームページ



用心堀と石灯籠

さぬき市役所

志度寺

地蔵寺

平賀源内旧邸

釜釜釜さん

平賀源内記念館

旅館いしや

新町自然石灯籠

志度城址

志度町の指定文化財一覧(今回のふるさと探訪見学地に関する文化財のみ掲載)

所有者(管理者)	指定区分	種類	名称
多和神社	国重要文化財	古文書	弘福寺領讃岐国山田郡田園
	国重要文化財	書跡	東大寺写経文書 二通
	県指定有形文化財	書跡	紙本墨書後小松天皇宸翰御消息と同女房奉書
平賀源内顕彰会	国登録有形文化財		旧平賀家住宅主屋
元屋	市指定有形文化財	建造物	新町自然石灯籠 含石鉄大権現灯籠 二基
平賀源内顕彰会	市指定有形文化財	歴史資料	平賀家伝来エレキテル
個人	国登録有形文化財		旅館いしや
志度寺	国重要文化財	建造物	志度寺本堂 附棟札 二枚
	国重要文化財	建造物	志度寺仁王門
	県指定有形文化財	建造物	志度寺戒壇堂及び寄衣婆堂 二棟
	国重要文化財	絵画	絹本着色志度寺縁起 六幅 附紙本墨書志度寺縁起等付属文書 九巻
	国重要文化財	絵画	絹本着色十一面観音像
	市指定有形文化財	絵画	絹本着色十一観音立像
	国重要文化財	彫刻	木造十一面観音両脇土立像 三躯
	県指定有形文化財	彫刻	木造如来形坐像
	県指定有形文化財	彫刻	木造金剛力士立像 二躯
	市指定史跡	史跡	海女の巻五輪塔群
市指定史跡	史跡	生駒親正墓塔	

1月24日（日）志度町からの復路

◆ことடன்志度線上り → 乗り換え → ◆ことடன்長尾線上り
（琴電志度駅）（瓦町駅） （瓦町駅）（高松築港駅）
12:20 → 12:55 <<ホーム移動>> 13:00 → 13:05

◆JR 高德線・高松行
（志度駅） （高松駅）
12:08 → 12:43



次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 鶴尾の山辺を歩く（予定）
と き 平成28年2月28日（日）
9:30～12:00頃
集合場所 ことடன்バス停 鶴尾（駐車場はありません）
講 師 山本 英之さん（高松市文化財専門員）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」2月15日号に開催案内を掲載します
ので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、
文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）で
お知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

◆ことடன்バス御厩下り
（高松駅） （高松築港） （瓦町） （鶴尾）
9:00 → 9:02 → 9:11 → 9:24

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※参加中は、次のことに充分留意し、
意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。